

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療学科】

学習課題・学習時間							
<p>臨床実習で修得するスキル</p> <p>社会的スキルはルールやマナーなど社会人としての基盤である。対象者やスタッフとのコミュニケーションなど、対人能力も含む。「主体的に行動する」「TPOに応じた言葉遣いや配慮をする」などは態度にあたる。</p> <p>臨床的スキルは運動スキルと認知スキルに分けられる。運動スキルの修得はスキル修得者（臨床実習では実習指導者）を観察し、模倣・試行を繰り返して修得されるもので、臨床実習ではこの過程をチェックリストで確認する。認知スキルとは「臨床の知」と言われるような、知識を臨床で応用し、状況に応じて行動・判断することで、経験を通じてしか学ぶことができない。実習指導者の解説を受けながら伸ばしていく必要がある。</p> <p>学生はスキル修得のために、以下の4点を日々繰り返すことが必要になる。</p> <p>①日々の目標を立て、達成できるように主体的に行動する。</p> <p>②チェックリストで自分の経験状況を確認する。</p> <p>③実習記録を書き、その日の経験を振り返る。</p> <p>④対象者の安心・安全に配慮し、対象者の心情や回復に関心を持つ。</p> <p>学習者である学生は、学習すべき各技術項目の実施を任せてもらえるよう、主体的に取り組まなければならない。不明瞭な点は実習指導者に確認し、理解を深めるための自己学習が必要である。</p> <p style="text-align: right;">必要時間（単位：時間）：1 単位：45 時間</p>							
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		40	0	30	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	10	0	10	0	5	25
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	5	5
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	10	0	10	0	0	20
	コミュニケーション力	10	0	5	0	0	15
	取組みの姿勢・意欲	10	0	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	OSCE（客観的臨床能力試験）でのコミュニケーションスキルをチェックする。（40%） 「模擬患者への挨拶はできたか」「自己紹介できたか」「模擬患者との会話ができたか」「声の大きさは適切か」「姿勢は適切か」などについて評価する。				ルーブリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①		学内における報告会（態度や報告内容）、対象者のレジюме内容により評価する。（30%）				ルーブリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①		見学実習の評定（態度や行動）によって評価する。（30%）				ルーブリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	見学実習の評定（態度や行動）によって評価する。（30%）				ルーブリックを用いて自己評価および教員評価を実施する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						

【2023 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 作業療法学コース/作業療法学科】

備 考	
他 担 当 教 員	志茂 聡、小沢 健一、榎田 哲弥、岡 猛、小川 麻里子、海保 享代、渡辺 俊太郎、向山 秀
教員の実務経験	各教員は作業療法士として様々な臨床経験を有する。
実践的授業の内容	臨床実習のため、実体験を通して、セラピストとして修得すべきスキルと態度、倫理観を育成していく。
そ の 他	大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 問題がある場合は登校を認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。 この科目では OSCE（客観的臨床能力試験）に合格していないと、臨床への見学実習には参加はできない。